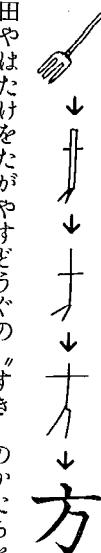


方

二年 筆順 画数
オノ ホウ カタ 4

成り立ち



△その「方法」は、てきも「味方」も、「両方」とともに
まんぞくするものでした。

△方法（法は「きまり」。「きまつたし方」というみの
ことば。『やり方』。手だて。手段）
△味方（「身方」のあて字。「自身の方」というみの
とば。自分の方のなかま）

田やはだけをたがやすどうぐの「すき」のかたちをあ
らわした字です。むかしのせいかつにはぜひともなくて
はならないどうぐでしたから、それで、「生きる」手だて
（生き方）というみをあらわしました。

「生き方」の「方」というみから、「東の方」とい
うようにもつかわれ、「方角」というつかい方も生まれ
ました。

また、「四方」というみから、「方形」というつかい
方も生まれました。

北

三年 筆順 画数
オノ ホク 5
クン きた

成り立ち



人が「せなか」をあわせてすわっているかたちをあら
わしたもので、「せなか」というみをあらわした字で
す。いまの「背」という字のとの字です。

人はお日さまのほうにむきたがるものですから、「せ
なか」はそのはんたいの「きた」のほうをむきます。そ
れで、この「北」という字で「きた」のほうをあら
わすことになりました。

このため、「せ」をあらわすために、この「北」に、
「月」をくわえて「背」という字をつくりました。

〔戦いに負けて逃げるのを「敗北」というのは、「敗れ
て敵に「背」を見せる」という意味である。これは、「北」
が「背」の意味に使われている例である。〕

使い方

△北風（北の方からふいてくる風のことですから、たいて
いかわいていてつめたい風です。）

△北進（北にむかって進むこと。）

△北上（北にむかって進むこと。）

△北欧（欧は欧洲でヨーロッパのこと。北ヨーロッパと
いうことで、ノルウェー、スウェーデン、デンマーク
などのくにぐにのこと。）

△北極（極は極地のいみで、地球の「北のはて」。地球
上のどの地点から北上しても、北極の一点にあつまり
ます。）

△北海（北方の海）

△北洋（洋は「ひろい海」。北方の海）

△北陸（むかし、北陸道とよばれたちほう。いまの、福
井県、石川県、富山県、新潟県をふくむちほう）

△両方（両は「二つ」。「二つの方」。「てきの「方」と
味方の「方」との二つの「方」）
△方向（向かつていく方がく。「向き」ともいいます。
△方針（「方がくをしめす針」というみのことばで磁石
の針のこと。これによつて目ざす方がくがはつきります。
水は方円の器に従う（方は「四かく」、田は「まる」。
水は四かくの器に入れれば四角になり、まるい器に入
ればまるくなります。そのように人もよい人の中に
いるとよくなり、わるい人の中にいるとわるくなりま
す。）

使い方

△北風は北方からふいてくる風のことですから、たいて
いかわいていてつめたい風です。

△北進することを北上するというわけは、ちずでは北が
上になつてゐるからです。

熟語別

△北風（北の方からふいてくる風）

△北方（北の方。北の方がく）

△北進（北にむかって進むこと。）

△北上（北にむかって進むこと。）

△北欧（欧は欧洲でヨーロッパのこと。北ヨーロッパと
いうことで、ノルウェー、スウェーデン、デンマーク
などのくにぐにのこと。）

△北極（極は極地のいみで、地球の「北のはて」。地球
上のどの地点から北上しても、北極の一点にあつまり
ます。）

△北海（北方の海）

△北洋（洋は「ひろい海」。北方の海）

△北陸（むかし、北陸道とよばれたちほう。いまの、福
井県、石川県、富山県、新潟県をふくむちほう）

△北風（北の方からふいてくる風）
△北進（北にむかって進むこと。）
△北上（北にむかって進むこと。）
△北歐（欧は欧洲でヨーロッパのこと。北ヨーロッパと
いうことで、ノルウェー、スウェーデン、デンマーク
などのくにぐにのこと。）
△北極（極は極地のいみで、地球の「北のはて」。地球
上のどの地点から北上しても、北極の一点にあつまり
ます。）